

平成20年度

事業計画書

自 平成20年4月 1日

至 平成21年3月31日

ノーステック財団

財団法人北海道科学技術総合振興センター

平成20年度 事業計画策定の基本方針

当財団は、設立以来、北海道における科学技術および産業技術の一層の向上をめざして産学官連携による各種事業を総合的・横断的に実施するとともに、その成果が実用化・事業化につながるよう支援体制を強化し、北海道産業の振興および活力ある地域経済の実現と道民生活の向上に成果を上げてきた。

このような中、平成19年度は、「中期アクションプラン」（平成18年度制定）に掲げた「成果を早期に創出するために行動する」「地域の産業発展に貢献する」「関係機関と協調を図りつつ自律・能動的な活動を行う」という三つの視点を念頭に、同プランの着実な実践に取り組んできたところである。また、文部科学省知的クラスター創成事業第Ⅱ期に採択された「さっぽろバイオクラスター“Bio-S”」の事務局を平成23年度まで担っていくため、知的クラスター推進室を新たに設置し、道内バイオ産業の振興に努めてきた。

平成20年度は、設立以来の活動理念の下、引き続き「中期アクションプラン」を着実に実践するため、次の4点を基本に事業を進め、より一層の成果を上げていくこととする。また、今年度は同プランの中間年度にあたることから、これまでの実績・進捗状況を適切に評価し、見直しを行うものとする。

活動の理念	研究開発から実用化・事業化まで一貫した支援を展開する
-------	----------------------------

1. 次世代型産業技術創出に向けた戦略的研究開発の促進

5-10年先に普及拡大が予想される次世代型産業技術の創出によって活力ある北海道経済の実現を図るため、産学官連携による先端的・独創的な技術・研究開発を推進する。

特に、実用化・事業化を視野に入れ、研究シーズを戦略的に編み込んだプロジェクトを推進することとし、そのための競争的資金獲得に向け、関係機関へ積極的に提案していく。

また、「さっぽろバイオクラスター“Bio-S”」プロジェクトを推進し、世界に通用する「北海道発 健康科学産業」の創出によって地域経済の活性化を目指す。

2. 地域経済の活性化に向けた産業クラスター活動の推進

産業集積が薄く、経済主体が各地に点在している北海道において地域経済の活性化を図るためには、それぞれの地域が潜在能力を最大限に発揮し、知恵と工夫の競争が必要である。その認識の下、道内30地域のクラスター研究会、各地域の企業ならびに産業支援組織との交流・連携を図りながら、産業クラスター活動の拡大を図っていく。

特に、道外へのビジネス拡大によって売上げの拡大を図るとともに、産業クラスター創造活動を支援する地域拠点の形成を通じて地域主体による事業化プロジェクトの推進を支援する。また、昨年度に引き続き食分野を中心に案件の発掘とブラッシュアップを行い、「食クラスター」形成を促進していく。

3. リサーチ&ビジネスパーク・起業促進に向けた産学官連携事業の推進

「北大リサーチ&ビジネスパーク推進協議会」の活動については、引き続き推進機能を担い、北大北キャンパスにおける中核的研究開発拠点の形成に向け、研究開発から実用化・事業化までの一貫したコーディネーション機能を発揮し、関係機関の協力・支援を得ながら積極的な活動を展開していく。

また、大学発ベンチャー等の起業促進に向け、産学官連携の下、ソフト面の支援態勢を整備し、「コラボほっかいどう」入居企業の活動支援とともに、隣接する「北大ビジネス・スプリング」*運営組織とも連携した取り組みを展開する。

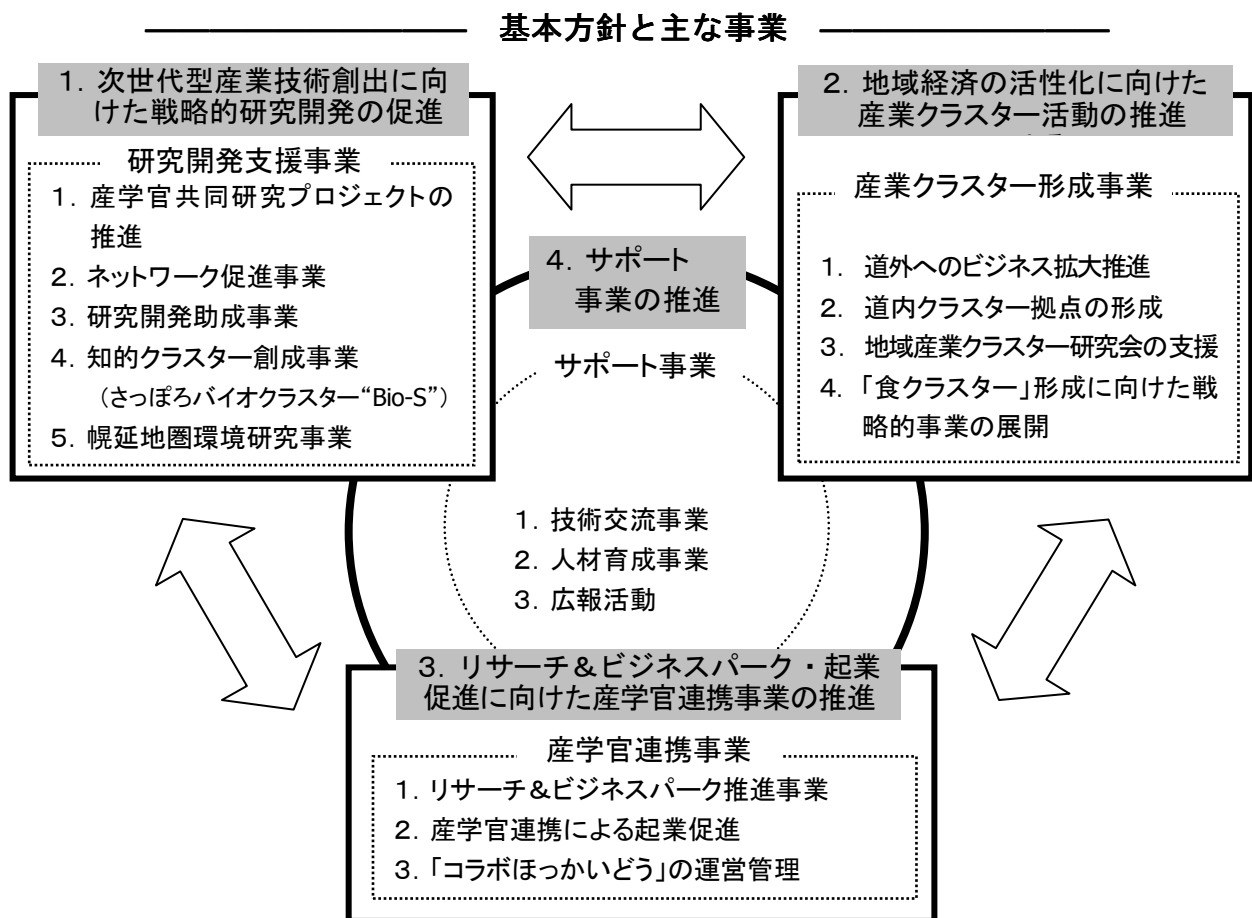
※(独)中小企業基盤整備機構が設置する北海道大学連携型インキュベーション施設（平成20年度下期開設予定）。

4. サポート事業の推進

北海道最大のビジネスイベントとして定着している「北海道技術・ビジネス交流会」(ビジネスEXPO)を引き続き支援する。

また、知的財産セミナーの開催による啓発・人材育成や、産学官連携によって各種プロジェクトに取り組むコーディネーター等の専門家の養成を推進する。

広報活動については、マスコミへ積極的に働きかけるとともに、メールマガジンやホームページを活用し、積極的かつタイムリーに情報発信していく。



平成20年度 事業計画の内容

1. 研究開発支援事業

活力ある北海道経済実現のため公的支援施策の積極的な活用に努め、産学官の連携により先端的・独創的研究開発の推進を図る。特に、実用化・事業化を視野に入れ、研究シーズを戦略的に編み込んだプロジェクトを推進する。

平成19年度に採択された文部科学省知的クラスター創成事業第Ⅱ期「さっぽろバイオクラスター“Bio-S”」事業による道内バイオ産業の振興を通じ、北海道経済の発展に貢献していく。

(1) 産学官共同研究プロジェクトの推進

国等の研究開発支援施策を活用し、産学官連携による技術シーズの応用・実用化段階までのプロジェクトマネジメントを行う。また、新産業の創出に向け次世代型技術研究開発の支援を行う。

- a. 地域イノベーション創出研究開発事業
- b. 地域資源活用型研究開発事業
- c. 次世代型技術研究開発事業
- d. 次世代ポストゲノム推進協議会事業

(2) ネットワーク促進事業

産学官の連携により、ビジネスアイデアの創造、製品開発、事業化に係る研究開発プロジェクトの立上げを支援し、道内企業のネットワーク化、企業マッチングの推進を図る。

また、道内の大学や高専・公設試・支援機関との連携により、産学官連携プロジェクトを発掘から事業化まで戦略的に支援し、道内における研究開発基盤力の強化を図る。

- a. バイオ産業クラスター・フォーラム事業
- b. 道内大学等との包括連携事業
- c. 地域イノベーション創出共同体形成事業

(3) 研究開発助成事業

萌芽的共同研究の育成および産業化につながる研究開発シーズに対して、研究費用の補助等の支援を行う。

- a. 基盤研究創成事業（若手研究者育成）
- b. イノベーション創出研究支援事業
（スタートアップ研究、橋渡し研究、モデル化研究）

(4) 知的クラスター創成事業（第Ⅱ期）「さっぽろバイオクラスター“Bio-S”」

北海道の優れた素材の機能性を科学的に分析・評価し、付加価値を付け、機能化さ

れた食材・食品・化粧品・医療品原料として市場に提供することにより、世界に通用する健康科学産業の創出を目指す。

(5) 幌延地圏環境研究事業

幌延町の地盤特性や地下空間利用、そこに生息する微生物の研究など地域特性を活かした地球科学研究（基盤研究）を推進する。また、基盤研究で培った技術を活用し、地域産業や生活環境向上等に有用なプロジェクト研究を実施する。

2. 産業クラスター形成事業

道内30地域のクラスター研究会や道内6圏域の中核推進組織との連携を図るとともに、専門家を活用したコーディネート機能を強化して実用化・事業化実績を拡大する。

なお、産業クラスター活動が10年の節目を経過したのを機に、これまでの取り組みと成果を検証のうえ、次のステップへ向けた「中期戦略」を策定し、産業クラスター活動のさらなる飛躍を目指していく。

(1) 道外へのビジネス拡大推進

道外への販売拡大に向けより多くのビジネス開発を促進させていく必要があり、公的試験研究機関等との連携によるビジネスプラン検討案件の発掘・新規プロジェクトの開発を推進する。また、道外への販売拡大が期待できる農業機械や食関連商品の販売活動等を支援し、道外売上の拡大を図る。

(2) 道内クラスター拠点の形成

財団がこれまで培ってきた事業化プロジェクトの開発手法を地域中核推進組織へ円滑に伝達・移転する。このような産業クラスター創造活動を支援する地域拠点の形成を通じて、数多くの地域内発型プロジェクトの推進を支援する。

(3) 地域産業クラスター研究会の支援

道内30地域のクラスター研究会に対しては、重点支援地域を選択し、成功事例づくりの後押しを継続しながらその成功事例を他の研究会へ紹介し、産業クラスター活動の活性化を図る。

(4) 「食クラスター」形成に向けた戦略的事業の展開

優位性のある「食」関連分野（農業機械、食品加工機械、加工食品等）に重点を置き、地域間、企業間の連携を一層促進し、“食クラスター”形成に向けた活動を展開する。

3. 産学官連携事業

(1) リサーチ&ビジネスパーク推進事業

大学にある知の資源を活用し、産学官の連携によって、新たな研究領域の拡大と成

果の創出、そしてビジネスの展開を図っていくための“場と機会”を提供していこうという「リサーチ&ビジネスパーク構想」が道内で推進されている。この先行モデルとして「北大リサーチ&ビジネスパーク構想」が平成15年度から推進され、現在、基盤機能の活用・拡充を目的とする第2ステージ（平成18年度から22年度まで）の活動が展開されている。

当財団は、平成19年度よりその事務局を務め、平成20年度も研究開発から実用化・事業化までの一貫したコーディネーション機能を発揮し、関係機関の協力・支援を得ながら、北大北キャンパスにおける中核的研究開発拠点の形成に向け、積極的な活動を展開していく。

(2) 産学官連携による起業促進

大学発ベンチャー等の起業促進に向け、産学官連携の下、企業・研究者に対するソフト面の支援態勢を整備し、隣接する「北大ビジネス・スプリング」*運営組織とも連携した取り組みを展開していく。

※2ページ注釈参照

(3) 「コラボほっかいどう」の運営管理

「コラボほっかいどう」を拠点に、産学官が連携・交流する“場”と“機会”を積極的に提供する等、産学官連携の一層の促進を図る。

また、現在入居している企業の活動を積極的に支援していく。

4. サポート事業

ビジネス化を加速するため北海道最大のビジネスイベントとして定着している「北海道技術・ビジネス交流会」（ビジネスEXPO）を引き続き支援していく。

また、知的財産セミナーの開催による啓発・人材育成や、産学官連携によって各種プロジェクトに取り組むコーディネーター等の専門家の養成を推進する。

広報活動については、財団の事業に対する道民理解の促進および研究や製品開発成果の幅広い紹介のため、マスコミへの積極的な働きかけなどを継続していく。また、メールマガジンやホームページを活用し、各種イベント情報、セミナーの案内、トピックスや研究成果等を積極的かつタイムリーに発信していく。

(1) 技術交流事業

- a. 「北海道技術・ビジネス交流会」（ビジネスEXPO）支援
- b. 道内企業視察会の実施
- c. 「北海道技術振興連絡協議会」等関係団体との交流
- d. 各種イベントへの出展
- e. 「全国地域技術センター連絡協議会」帯広開催への支援

(2) 人材育成事業

- a. 知的財産等のセミナー開催

b. コーディネーター等専門家の養成

(3) 広報活動

a. マスコミへの積極的な情報発信

b. ホームページ運営、メールマガジン配信、パンフレット作成 等

(4) その他関連事業

a. 独立行政法人国際協力機構（JICA）研修事業

b. 特許流通アドバイザー事業